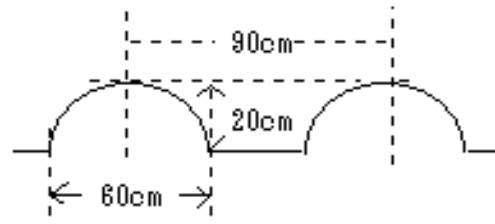
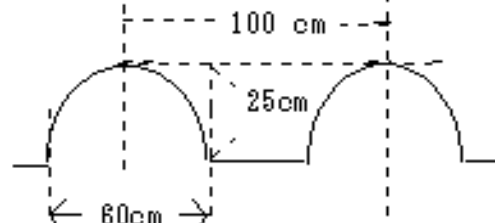
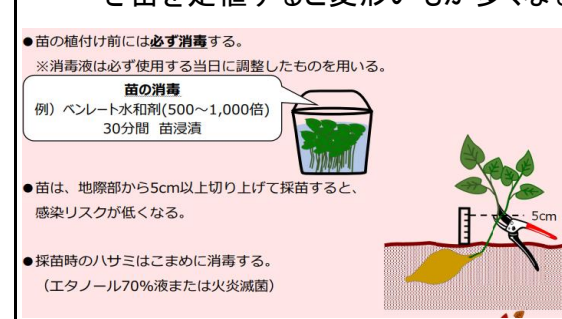


かんしょ

月	旬	作 型	作 業	栽 培 の 要 点	摘 要												
2			土作り 施肥・耕耘	(1)土作り ・たい肥は前作時または植付けの2か月前までに完熟堆肥を施用する。未熟たい肥はつるぼけやいもの形状不良の原因になるので絶対に施用しない。	作畦例(畦立マルチ機使用) (火山灰土地帯)												
3		◎	土壌消毒・同時畦立マルチング(◎)	(2)耕起・碎土 ◎形状を良くするため5回(5～7日に1回程度)以上行う。但し、降雨後の耕耘はしない(降雨後の耕耘は大きな土くれを作り、いもの形状が悪くなる)													
	上	△	定植(△)	(3)施肥・耕耘 ・コガネムシ対策として植付け30日前頃～マルチング直前の期間に基肥とダントツ粒剤6～9kg/10aまたはプリンスペイト6kg/10aを土壌混和する。塊根を食害する幼虫が多発生する7月中下旬に、ダイアジノン粒剤5(4～6kg/10a)を使用量を減らし畝間に散布後軽く覆土する。登録は収穫の30日前までなので注意。 ・石灰資材の施用は土壌消毒の1か月前とする。 ・施肥基準を基に圃場条件、土壌診断等によって加減を行う。	(重粘土地帯)												
4	中			(4)土壌消毒・同時畦立マルチング ・畦幅は最低75cmとするが、畦立マルチ機的能力や、収穫時に機械を使用する場合はそれに応じた畦幅で作畦し植付苗数は株間で調整する。 ・黒マルチを使用する。 * 同時畦立マルチ以外で土壌全面消毒を行うときは植付け1か月前までに行う。その後のマルチングは植付け予定日の1週間前までに行い地温を確保する。													
	下		除草 病虫害防除	(5)植付け ◎ウィルスフリー苗等を使用し定期的な種苗の更新を行う。 ◎地温15℃を確保し、4節内外を斜めに植え込む。 ・7節以上の苗を使用し、置き置き期間は5日を限度とする ・植付けはできる限り夕方、もしくは曇天日に行い、植付け後は活着促進・雑草防除のため株元に土寄せを行う。 ◎基腐病対策として、苗の植付前に必ず消毒を行う。 採苗の場合、採苗当日に必ず消毒を行い、消毒液は使用当日に調整したものを用いる。 ◎高温回避のため定植は6月20日ごろまでに終わるようにする。	* 重粘土地帯は畦幅を広くとるなどして十分な土量(畦高)を確保する。 植付苗数 3,700～4,000本/10a												
5	中			(6)雑草防除・病虫害防除 ・活着後、アブラムシ・ダニの発生に注意し、発生がみられる場合は薬剤防除を行う。 ・サツマイモ基腐病対策として、苗消毒をする等の 持ち込まない対策 、二次伝染や感染予防のため銅剤(Zボルドー、ジーファイン水和剤)やアミスター20フロアブル、トリフミン水和剤をローテーション散布する等の 増やさない対策 、苗床や畑で、発病が疑われる株を発見した場合、速やかに外に持ち出し適切に処分する等の 残さない対策 を行う。	<table><tr><th>畦幅 (cm)</th><th>株間(cm) 3,700本/10a～4,000本/10a</th></tr><tr><td>75</td><td>36 ～ 33</td></tr><tr><td>80</td><td>34 ～ 31</td></tr><tr><td>100</td><td>27 ～ 25</td></tr></table>	畦幅 (cm)	株間(cm) 3,700本/10a～4,000本/10a	75	36 ～ 33	80	34 ～ 31	100	27 ～ 25				
畦幅 (cm)	株間(cm) 3,700本/10a～4,000本/10a																
75	36 ～ 33																
80	34 ～ 31																
100	27 ～ 25																
	下	△		(7)収穫・種芋貯蔵 ◎植付け後120～150日程度で収穫する。 ・霜にあうと腐敗や貯蔵性が劣ることから、初霜前には収穫を終えるようにする。 ・収穫は努めて晴天日に行い皮むけに注意する。 ・収穫後、長時間日光にさらすと鮮度が落ちるので、掘り取り直後は日陰におく。 ・次期作の種芋については無病健全で、200～300g程度のものを選ぶ。 種いもの更新は定期的に行う ・必要量は、10a当たり40～80kgであり品種によって判断すること。 ・自前で貯蔵する際は、温度13～16℃、湿度90～95%を維持する。	根付きの苗は必ず切苗してから植付ける (既にいもになる根が分化しており根付き苗を定植すると変形いもが多くなる)												
6	上			(新たに取り入れる技術)													
7	中			(1)局所施肥技術 トラクターに装着可能な局所施肥機(例：ジョーニシ製)を用いて畦立て時に局所施肥を行う。 窒素だけではなく、リン酸・カリも減るため生育を考慮して必ず家畜ふん堆肥を投入すること。	挿苗後は苗と土を密着させるよう軽く畦を抑え、生長点が埋まらないように株元に土をかぶせる。												
	下		収穫・出荷調整	(2)ドローン防除技術 茎葉が通路に繁茂する8月以降の防除においてドローン防除は非常に効果的。ドローンに登録がある農薬を確認したうえで実施を。 ドローン防除によって労力削減が期待できる 【現状】約15分/10a→【ドローン】約6分/10a ※現状は、AP-1での防除を想定													
8	上			施肥基準 10aあたりkg	◎畦立て、マルチング △定植 ■収穫												
9	中			<table><tr><th>肥 料 等</th><th>施 肥 量</th><th>成 分 量</th></tr><tr><td>完熟たい肥</td><td>2,000</td><td>N 4.5</td></tr><tr><td>苦土石灰</td><td>80</td><td>P 6.7</td></tr><tr><td>BB820</td><td>56</td><td>K 11.2</td></tr></table>	肥 料 等	施 肥 量	成 分 量	完熟たい肥	2,000	N 4.5	苦土石灰	80	P 6.7	BB820	56	K 11.2	
肥 料 等	施 肥 量	成 分 量															
完熟たい肥	2,000	N 4.5															
苦土石灰	80	P 6.7															
BB820	56	K 11.2															
	下			(2)ドローン防除技術 ドローンで使用可能な農薬一覧(対象:ナカジロシタバ) ・プロフレアSC ・プレバソンフロアブル5 ・プレオフロアブル ・ディアナSC 等 その他、基腐病対策でもドローンは有効です！													
10	上																
	中																
	下																
11	上																
	中																
	下																